

学校法人 コミュニケーションアート OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和7年6月30日実施】

令和6年度自己点検自己評価(令和6年4月1日～令和7年3月31日)による

学校関係者評価委員氏名【卒業生I 保護者S 地域関係者N 高等学校関係者M 企業等委員K 企業等委員N 企業等委員M 企業等委員O 企業等委員K】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学校法人コミュニケーションアート OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校は、学校法人滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。 「3つの教育理念」「実学教育」「人間教育」「国際教育」を実践し「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。 教育理念に基づき、OCA大阪デザイン&テクノロジー専門学校は、『人に喜びや感動を与えられる「即戦力」となるクリエイティブ・IT業界の人材育成』を目的として学校運営をしている。 現在、クリエイティブ・IT業界を取り巻く社会環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、将来的にも、3年制課程と「産学連携教育システム」により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現してい	「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの教育理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・IT・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡、NYまで82校を有する。 「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を実践的に教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。特に、業界と共に業界に必要な人材を育成する「産学連携教育」を教育の柱として、即戦力印材の育成を行っている。 「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え・気構え・心構えを養成する。 「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。またコロナ禍において海外実学研修は実施できなかったが、海外からのオンライン授業などを通じ、グローバルに学ぶ機会を設けている。	2.89	時代に合わせた理念や目的が定められており、それに伴い入学率や就職率にも結びついていと感じています。実際に貴校を卒業して弊社に入社した社員においても人間性スキル面ともに優れた方が多く、貴校で学ばれたことを社会人になったあとも発揮できているように思います。 コースの幅が広いですね。人間教育が一番大変で労力が掛かると推測します。就職直結は実学で国際は差別化に今でもなる様におもいます。 特筆すべきは、教育理念の「人間教育」部分に関し、業界全体を見渡したときに、非常に高いレベルで実践できていることです。私は年間10校以上の専門学校、大学へ出張編集部という形で足を運んでおりますが、イラストレーターや漫画家、シナリオライターなどといった作家業に憧れて専門学校への入学を決意する学生の多くは、才能を持ちながらも様々な理由から不登校になってしまったり、他者とのコミュニケーションに不全があったり、定められた納品日を自己都合で守れないなど一般的に社会不適合とされる側面を持つ方が多いと感じております。 ですが、貴校におかれましては他校にくらべ、学年が上がるにつれ、この割合が少なくなってくると感じます。貴校がゴールとして目指している「即戦力となるクリエイティブ・IT業界の人材育成」を達成するため、理念として掲げておられる、「実学」「人間」「国際」教育が上手くかみ合っており、また、現場レベルで高く実践できていることの証左と感じ、優れていると評価いたします。 クリエイティブ・IT業界における即戦力となる人材を育成するための充実した教育プログラムを提供していると感じる。業界や地域社会からの信頼を得るための組織化、教育姿勢を評価します。 OCAが掲げる「実学教育」「人間教育」「国際教育」という三本柱の教育理念は、私が在学していた頃から一貫しており、その精神が現在もしっかりと受け継がれていると感じています。学生一人ひとりの個性を尊重しながら、社会に貢献できる人材を育てるという方針は、今の時代においてますます重要性を増していると感じます。特に、「即戦力となるクリエイティブ・IT人材の育成」という育成人材像は、業界の現場と密接につながるOCAだからこそ実現できる目標だと感じます。 教育理念と実際のカリキュラムや指導方針がしっかりと結びついている点は、他校にない強みであり、今後も大切に継承されるべき要素だと思います。 普通の四年制大学ではなく、専門学校に進学することを決めた生徒の中には、社会に出て「即戦力」として活躍したい、手に職をつけたいという気持ちを持った方が多いと考えています。それを貴校がしっかりと理解されていることがわかる、教育理念だと改めて感じさせられました。また、専門性を高めることだけでなく、社会に出てから必要なスキルなどを学ぶことも非常に良いと感じました。 即戦力となる人材を育てているという点でそれ程の教育が行われている。就職に強い学校だと安心して通わせられている。英語を身につけられると思い、入学理由の一つとしていましたが、あまり学んでいないように感じています。
	1-2 学校の特徴は何か					
	1-3 学校の将来構想を抱いているか					
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	諸環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては、毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年数回、勉強会として、事業計画に基づく、学園および学校の方針について、全教職員へ周知徹底するための研修を行っている。 事業計画においては、グループ全体と本校の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。 学校が重要視していることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。 また、滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(ASシステム)により管理・運営している。学生情報や総務管理、財務情報などの管理を行っている。	事業計画書は、学校全体の運営方針を明記している。また、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。 さらに単年度の計画にとどまらず、5年後を見据えた、中長期的な運営方針もまとめており、グループの方針に即しつつ、学校としての特徴を生かした計画を立て、実行している。 「教育の質は、実践する教職員の成長により向上する。」という考えのもと、新入職者からマネジメント層に至るまで、それぞれの職務に必要なマインドの養成とスキルアップを目指している。 ＜JESC主催の主な研修内容＞ ・新入職研修(広報研修・FDミクロレベル研修) ・FDミクロレベルフォローアップ研修・FDミドルレベル研修 ・FDマクロレベル研修・FDセッションコーチ研修 ・進路変更アドバイザー研修・キャリアサポートアンケート勉強会 ・マネジメント研修・広報力大会・滋慶教育科学学会 ・キャリア教育アドバンス研修 など ＜その他研修例＞ ・人権同和問題企業主研修会・留学生担当職員研修会・認定CPOアカデミック資格講座・LGBT研修・講師研修会 等 【情報システム】 ◎広報業務システム…資料請求～出願までの情報を管理できる ◎出欠管理システム…在校生の出欠、成績、カウンセリング内容を管理できる ◎就職システム…全国の求人閲覧できるシステム ◎予算管理システム…年度内の予算で運営できるように予算確認から執行までを確認できるシステム ◎勤怠管理システム…教職員が健康でいられるように シフト管理を徹底し、公休日・有給休暇の消化、残業の調整などを行う ◎人事データバンク…人事に関する申請を簡略化するためのシステム ◎Microsoft TEAMS…学生とスタッフのコミュニケーションシステム(授業運営) ◎ガルーン…スタッフ間のコミュニケーションシステム(滋慶学園Gのメインシステム)	3	貴校に往訪させていただく際に先生方やその他スタッフの方々が生徒の育成や学校運営に向けて真摯に取り組んでいらっしゃるかと常々感じております。そういった前向きな姿勢が見られるのは組織としての運営がきちんとなされているからだと感じますので評価を3とさせていただきます。 ビジネスマインドを持たれたスタッフの方が運営されている印象。 専門学校全体を見渡した時、少子化の余波を受け、定員割れにて廃校となる専門学校も出ているなか、貴校は学生数をしっかりと確保できており、安定的な学校運営の実現ができている。この点を高く評価いたします。学校評判を高く維持するための教職員の育成ができていること、また、新規事業(例えば成長著しいeスポーツ分野において西日本初の専門学校となり、大阪府のeスポーツラウンドテーブル(OeGG)の設立に関係するなど、就職先となりえる関連産業の拡大に貢献しているように感じます)の立ち上げに成功していることが、入学者数の向上の一助になっているのだと懸念いたしますが、これは中長期計画が上手くいっている(世の中の変化に柔軟に対応し、需要のある分野を見つけ出せている)ことの現われであると評価したいです。 また増える学生数に対応できるよう、学生や教職員を管理する各種情報システムも日々新しくアップデートされたものが導入されている点も他校と比較して優れている点だと申し添えさせていただきます。 明確な事業計画とその実行を通じて、変化する社会環境に対応しながら、教職員が目標達成に向けて取り組む姿勢が窺える。学生に対して質の高い教育を提供し、社会に貢献する人材を育成するための体制がしっかりと整えられている。 学校運営における意思決定や事業計画の構築が、短期・中期・長期の視点から体系的に行われている点は、非常に効果的であり、変化にも柔軟に対応できる体制だと考えています。教職員全体が共通の目標に向かって進んでいる様子が伝わり、組織としての一体感を強く感じます。また、教職員の研修制度が充実しており、新任から管理職まで段階的に学びを深める体制が整っていることも印象的でした。 学生たちに質の高い教育を提供するためには、まず教える側のスキルとマインドの向上が必要不可欠であり、その点で本校の取り組みは非常に優れていると感じております。今後も、時代の変化に対応した柔軟な運営と、教職員の専門性向上に向けた取り組みが期待されます。 学校全体の運営方針をしっかりと見える化されており、クリーンな活動をされていることが非常に伝わりました。また、変化していく社会環境に対応しながら、毎年計画的に、短期～長期ごとの事業計画を作成されていることも素晴らしいです。 職員研修が多い事で、生徒にうまく反映されていく事を願う。職員が働きやすい職場であると生徒にも良い影響は必ず出てくるので継続してほしい。
	2-5 事業計画は定められているか					
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか					
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか					
	2-8 意思決定システムは確立されているか					
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか					

3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の動向を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	本校は、1988年の開校以来、教職員の目標として、 1. 専門就職希望者全員就職 2. 退学率 0%（入学者は全員卒業してもらう） を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。	2.78	実際に貴校を卒業された学生に入社いただいており、そちらの方達だけを見ての意見となってしまいますが、上述させていただいた通り人間性やスキル面は優れている方が他校に比べ多いと感じておりますが、あくまで学生の範疇で、業界での即戦力と考えるとまだ技術的には劣っている学生が多い印象です。インターンシップなど実践的な教育もされていますがもう少し実務に寄せた講義や課題も必要なのかもしれません。
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか					
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか					
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか					
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか					
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか					
	3-16-1 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか					
	3-16-2 教員の専門性を向上させる研修を行っているか					
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか					
4 教育成果	3-18 資格取得の指導体制はあるか	3	成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。資格取得については、色彩試験検定やIT系の資格対策授業など、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。	第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。 入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。	2.78	決してアカデミックな評価、達成を目標にしておらず、理念・目的にある、実学、人間学、国際を追求し、その結果として就職をその達成の具現にしている所は賛同。
	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか					
	4-20 資格取得率の向上が図られているか					
	4-21 退学率の低減が図られているか					
4 教育成果	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職 希望者全員就職、退学者0名 を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。	第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システムー「産学連携教育システム」である。 これには、次の6つが挙げられる。 ①企業プロジェクト ②現役クリエイター・エンジニア講師陣 ③業界研修 ④海外実学研修⑤特別ゼミ ⑥ダブルメジャーカリキュラム ⑦キャリアセンター・デビュー事務局 である。 海外実学研修については、2024年度実施。また米国UWF校との提携授業や海外の業界TOPクリエイター・エンジニアより教養を受けるプログラムなどを通じ、国内にいながら、最先端を学ぶ機会を担保している。	2.78	即戦力となる人材の育成・輩出に関し、最も大切なのは適切なゴールの設定と考えます。各業界において求められる人材の変化を正しく把握できれば、適切なカリキュラムの設定はできず、ゆえに必要な学生指導を行うための教員への指導も行えません。産学連携教育システムの導入が、この一助となっていることは明らかなで、これを高く評価いたします。また、貴校の教職員が業界との接点を密に持つことで、実需を正しく把握できていることが、項目【3-10】～【3-14】、【3-16-1、3-16-2】などの自己点検が上手いっているのかと考えます。 漫画に関しては各出版社の現役の作家や編集を講師として招く…などより一層力を入れられてもいいのかもしれません。（すでにされています）
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか					

5 学 生 支 援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	3	本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。 それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。またキャリア教育・生涯教育の観点から卒業後の支援についても、継続している。 学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。また、保護者会を開催するなど、随時、保護者とも連携し、必要な支援を実行している。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。 ③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(チューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。 ④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。 また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。 学生寮も学園の専用の寮を整備しており、寮長と担任とが連携して学生を支援している。	3	滋慶学園グループでは、「ひとり一人を大切に」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。 その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。 キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修・インターンシップ」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、さらに履歴書添削、面接練習、スーツ着こなし講座、メイク講座など就職に関するあらゆる支援を行っている。デビューを希望するには、デビューセンターのスタッフが作品添削会、編集部への持ち込みツアーなど、デビューのチャンスを提供している。また卒業後も添削会への参加の案内など、卒業生のサポートも継続している。 また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をし、迅速な対応ができるように支援している。 このような支援体制の結果、就職希望者は全員就職を達成している。「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。 即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。 生活面でのサポートについては、年間通じた学生面談、保護者や出身校の先生との連携などを通じ、カウンセラーとの連携を円滑に行っている。	卒業生の就職支援なども熱心に取り組まれており、学生の個々の能力は勿論ですが、そういった学校側の姿勢も就職率に結び付いているように感じました。 精神的な病を患っている方へのフォローなど健康面でのサポートも行われているとの説明を受け、保護者の方が安心して預けられる環境となっているかと思います。 全く問題無し。 修学支援新制度の対象校認定を受けていたり、機材の貸し出しが充実していたりと金銭面で不安を持つ学生を支援できる体制が整っているだけでなく、健康支援などに際しても、滋慶学園グループのクリニックがバックアップできていたりと、多岐にわたり学生を支援できる制度導入が機能している点を高く評価いたします。 学生が目標を達成できるように多角的な支援体制を整え、学生の自立を促しながら、学業、生活、健康の各方面で充実したサポートを行なっている。このような取り組みが、学生の学業目標達成と充実した学生生活の実現に寄与している点が高く評価できる。 OCAでは学生一人ひとりに対して丁寧な支援が行われており、就職・生活・健康・経済面と、どの視点から見てもバランスのとれた体制が整っていると感じます。 特にキャリアセンターと担任の連携、SSCによる心のケア体制は非常に手厚く、学生のモチベーション維持と問題の早期解決に貢献していると思います。 また、支援のあり方として、「支援はあくまで自立を促すものである」という姿勢にも共感します。 支援される側の主体性を尊重する姿勢は、結果的に社会に出た際の適応力にも繋がっていくと考えます。今後多様化する学生ニーズに対応できる柔軟な支援体制の進化を期待しております。 卒業生の再就職のサポートまでされているのが素晴らしい。 ・卒業生支援にも取り組まれていることは大変よいことと思います。 支援はあくまでも支援、学生本人が自覚を持つことに意味があるという考え方については、私自身共感できました。 社会に出てからも主体性は重要で、それを育てるための取り組みをされていることが伝わりました。 キャリアセンターでのフォロー体制もしっかりとされており、就職をゴールとせず、社会に貢献できる人材に育てることを目標に掲げいらっしゃることは、企業としても非常に有難いです。 相談しやすい体制が整っている事はとてもありがたく安心できています。卒業後、数年たっていても相談できるという点はとてもありがたく心強い。
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか					
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか					
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか					
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか					
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか					
5-29 保護者と適切に連携しているか						
5-30 卒業生への支援体制はあるか						
6 教 育 環 境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。一昨年末より改装を行い、学生が学ぶ環境や生活の環境の向上を図っている。 機材についても、学内に880台にも及ぶPCを用意しており、サポートが経過した機材は買い替える、VRなどの最新機材についても常に導入し、さらに教育環境の充実が図られた。 学内の教育環境に留まらず、学外の環境(インターンシップ・業界研修、学外演習、海外実学研修)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。 防災訓練・避難訓練も計画的に実施しており、安全対策を日ごろから啓蒙している。	2.89	オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、業界において最新・最良のものを整備している。 海外研修については2024年度も実施し、アメリカの企業・施設を訪問、TOP海外クリエイターからの講演なども行った。また、国際教育の一環として、海外クリエイターによるゼミや海外企業との企業プロジェクトなど、グローバルな視点を育成できるカリキュラムを実施した。 毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている 防災について、地震等の災害の際に学生の安否を確認するシステムがあり、万一の災害に備えている。 校内とエントランスに防災、防犯カメラを3台から16台に増設し、2F教務室と1F事務局から、各フロアを確認することができるようになった。	教育設備については他専門学校様にくらべてもかなり充実した設備を用意されているように感じます。 専門職の技術習得には機材設備がかなり影響が出るかと思いますので高く評価しております。 防災についても防犯カメラを設置されたとのことでは万が一に備えて対策が行われているかと思います。 国際に関する所は在籍する生徒の海外研修だけでなく、外の生徒の受け入れを検討されては？ 業界で即戦力となり得る人材育成を目的として、教育環境の整備に力を入れていると感じる。学内外の教育環境の充実、最新機材の導入、実践的な学外研修の整備、安全対策の徹底など、多角的な取り組みが行われており、学生が質の高い教育を受けるための基盤がしっかりと整えられている点が高く評価できる。 校舎の改装やVR機材の導入、880台を超えるPC環境の整備など、教育環境への投資が積極的に行われている点は、他校と比べても非常に先進的だと感じます。 これほどの充実した環境で学べることは、在校生にとっても大きなアドバンテージになると考えております。 また、学外研修や海外実学研修といった体験型プログラムも豊富で、机上の学びにとどまらない、実践的・多面的な学習ができることも高く評価される点だと思います。 防災・防犯対策についても、時代の要請に沿って強化されており、学生の安心・安全を守る体制が整っている点にも安心感があります。校舎の改装やVR機材の導入、880台を超えるPC環境の整備など、教育環境への投資が積極的に行われている点は、他校と比べても非常に先進的だと感じます。 これほどの充実した環境で学べることは、在校生にとっても大きなアドバンテージになると考えております。 また、学外研修や海外実学研修といった体験型プログラムも豊富で、机上の学びにとどまらない、実践的・多面的な学習ができることも高く評価される点だと思います。 防災・防犯対策についても、時代の要請に沿って強化されており、学生の安心・安全を守る体制が整っている点にも安心感があります。 即戦力となり得る人材を育成するという目的に対して、グローバルに活躍できるように、海外研修や、海外クリエイターによるゼミなどのカリキュラムを実施したことは、学生にとって非常に有意義であったと考えております。 他には、機材の購入や施設の整備の充実など高水準の教育基盤が整えられていることが分かりました。 設備はとても充実していると思う。授業後に残って使用している事もあるので助かっている。海外研修に行った事で視野が広がり、更に上をという目標ができたように感じた。一年次だけでなく、また行けたらと本人も希望しているほどなので、とても良かったと思う。
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか					
	6-33 防災に対する体制は整備されているか					

7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	3	本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等も)を遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。 さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。 これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。 入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。 なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。 将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。 学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。 保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。 本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。 本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規程の認証を受けている。	3	過大な広告というのがどの程度のものになるのか判断しかねるのですが、少なくとも高い入学率、就職率の情報や実際の学生を見せていただき、優秀な学校と認識しておりますので、学生募集活動についても適切に行われていると考えております。 また、入学選考や学納金についても同様に問題ないと感じております。 優れているかと存じます。 適切な募集活動と透明性の高い広報活動を実現し、個人情報の厳重な管理、公正な入学選考プロセス、無駄な支出のチェックを徹底していると感じる。これにより、学生や保護者からの信頼を得ることができ、健全な学校運営が実現されている点が高く評価できる。 広報活動において、過大な表現を避け、事実に基づいた情報発信が行われていることは非常に信頼性の高い姿勢だと感じました。 また、面接選考を通じて目的意識を重視する入学基準は、志のある学生を迎えるための大切な方針だと感じています。 一方で、大学進学との比較検討をする高校生が増えている今、4年制課程を含め、OCAならではの優位性を明確に発信していくことが、今後さらに重要になると考えています。 即戦力人材として活躍できる教育環境の強みや、卒業後の成果を前面に出した広報戦略に期待しています。 少子化の中、募集定員をしっかりと確保され、しかも、4年制に80％入学されるというところがすばらしい。 少子化が進んでおり、生徒を募集するために各学校を様々な取り組みをしている中で、貴校は過大広告を一切排除するなど、ルールに遵守し、正々堂々と活動されていることが伝わりました。SNSやHPなど、広報において様々な工夫がされていることもよくわかりました。 また、入学してもらうことが目標ではなく、学生が専門就職を果たすことを第一目標としていることが、今の結果に繋がっていると感じました。 数校見学に行き、学費やカリキュラム設備等を比べた上で学校の特色もしっかり理解でき、入学を決める事ができた。
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか					
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか					
	7-37 学納金は妥当なものとなっているか					
8 財 務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。 その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠のものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。 毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。 5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実 に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていていると考えている。 会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。 平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報を公開している。	予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。 短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものとなればそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。 ②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。 さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者が予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、・事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供している。	3	事業計画や会計監査を適切に行われており、問題ないと感じております。また、実現可能な予算の作成及び体制づくりも行われているとのことで、そのあたりも踏まえてこちらの評価としております。 問題ないかと存じます。 財務管理を重視し、中長期的な視点からの予算編成と透明性の高い財務情報公開を実現していると感じる。これにより、学校の財務基盤が安定し、健全な運営が可能となっている点が高く評価できる。 財務運営がしっかりと計画されており、短期的な視点だけでなく、中長期的な安定性を見据えた管理体制が構築されていることに安心感があります。 収支計画の柔軟な修正や理事会による多重チェック体制も機能しており、健全な運営を維持されていると感じました。 このような健全な財務基盤があるからこそ、教育環境や支援制度への投資も継続的に実施できているのだと思います。 今後も、学生や保護者にとって無理のない費用負担と質の高い教育との両立を図っていただければと思います。 学校・学園本部・理事会・評議員会と、複数のチェック体制によって予算案が精査されている点は、財務の透明性・信頼性の担保につながっており、評価されるべき体制だと感じました。 財務情報を後悔しているのでチェックでき信頼できる。
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか					
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか					
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか					

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかはつぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 等である。	＜法令順守に係る組織体制・システム＞ ◎組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) ◎システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 学内にコンプライアンス委員会を設置し、厳格なコンプライアンスの遵守に努めている。委員長は、統括責任者である法人の常務理事が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のための啓発活動の推進である。	3	適切な組織体制が組まれ、コンプライアンスに対しても十分に対策されていると感じています。 問題なく行えているかと思います。 法令遵守を徹底し、透明性の高い学校運営を実現するための体制とシステムを整備されている。これにより、学校運営の信頼性が高まり、学生や保護者、地域社会からの信頼を得ることができる点が高く評価できる。 法令遵守や個人情報保護に関する意識の高さは、学校全体の信頼性に直結する重要な要素であり、OCAではグループ全体を通じた統一的な体制がしっかりと整えられていることで高く評価されるべきだと思います。 コンプライアンス委員会の設置や、教育・研修の定期実施も実効性が高く、関係者がルールと役割を正確に理解している様子でした。これからも学生・保護者・地域社会からの信頼を維持し続けるために、変化する法制度や社会課題にも柔軟に対応する姿勢を期待しています。 学校全体で法令遵守を方針として掲げ、すべての教職員が理解・実行に努めているという姿勢は非常に伝わりました。 個人情報の取り扱いや情報の漏えい、コンプライアンスについて、世間の目が今まで以上に厳しくなっている中で、コンプライアンス委員会を設置するなど、適切な対応を取られていると感じました。 法令順守等についての体制は整備できているとの事なので今後も継続してほしい。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)	⑥システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)		
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		滋慶学園グループ、COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。 また、自己点検・自己評価の結果についても公開をしている。			
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか			監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている		
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③学生・保護者からの信頼 ④地域からの信頼)というコンセプトがある。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ向かいに行う特別講義等では、「高等学校からの信頼」に繋がっている。 滋慶学園グループが従来より「地球温暖化防止対策」運動を推進している。節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々を実施している。また、行政との連携により、教室の開放による地域や小中高へのサポートや地域貢献、社団法人やNPO法人等の社会性の高い各種団体と連携し、広報周知活動に貢献するなど行っている。 ボランティア活動についても奨励しており、学生便覧にも規定している。 特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。	本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。例えば、①大阪府・市からの企業プロジェクト ②大阪市西区との企業プロジェクト ③業界企業とタイアップして行う全国企業プロジェクト ④中学校の職業理解支援 ⑤地域の清掃活動等々、年間を通じ、教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。 その活動が、「業界からの信頼」、「地域からの信頼」、「高等学校からの信頼」、「学生・保護者からの信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がり、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく。昨年については、大阪府教育委員会 小中学生に向けe-sportsを通しての探究読解プロジェクト、西区役所主催「にしくバル」擬人化キャラクター採用など、数々の貢献を実施。今年も昨年に続き、学園祭の収益を地域に寄付するなども行っている。	3	地域や企業との共同プロジェクトや学校主体のボランティア活動など行っているのご説明を受け、積極的に社会貢献や支援など行われていると感じました。 ここのボランティア活動が就職に役立つように出来れば良いですね。 優れていると感じます。 滋慶学園グループの「4つの信頼」の獲得を目指すことで、社会貢献を果たすことに繋がると考え、その実現に向けた多角的な取り組みを行っていると考え。これにより、業界、高等学校、学生・保護者、地域からの信頼を得ることができ、学校の信頼性と社会的価値を高めるための基盤がしっかりと整えられている点が高く評価できる。また、ボランティア活動として地域での清掃活動を行なっていることも高く評価するに値する。 地域貢献や業界との共同プロジェクト、高校・中学校との教育連携など、OCAの社会貢献活動は多岐にわたり、実際の成果を伴っている点に感心しています。 私自身もOCAでの学びを通じて、社会とのつながりの中で学ぶ意義を知ることができました。 今後は、さらに本校の持つクリエイティブな知見やノウハウを、地域や若年層への教育啓発・キャリア形成支援などに活かしていくことで、専門学校の枠を超えた社会的価値を創出していけるのではないかと期待しております。 近所の清掃活動をされていることがいいと思いました。 ・大阪市西区や教育委員会と連携した様々な取組は、社会貢献として貴重な活動であると思います。 今後も、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献の実施に期待します。 4つの信頼というコンセプトは学校法人として、社会貢献をする上で、素晴らしい視点だと思います。 特別なことをするわけでなく、日常的かつ、継続的に社会貢献をされている姿勢が伝わりました。 e-sportsなど学ぶ内容が一部において良くない印象を持たれているので理解してもらえるようにいろんな企画を出し活動してほしい。学園祭の収益を寄付している事はとても良いと思うので今後も継続してほしい。近隣の学校との交流等が増えればと思う。
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか					